



近くの草むらから虫の鳴き声が聞こえてきます。欧米の方の中には、虫の音を鑑賞するという日本の文化に驚く人もいます。四季の区別が明瞭なわが国では季節の音や匂いというものがあり、古来、文学や音楽の作品などのテーマにもなってきました。それでも最近の気象変動や産業の発達のせいでしょうか、昨今、秋が短くなったような気がします。もったいないので、ちょっと意識して秋を楽しみたいものです。

古代, 中世の村の姿は？

おおみち 大道遺跡発掘より

「古民家だより」の前号でもご紹介した大袋地区の大道遺跡の様子を、もう少しお伝えしたいと思います。この発掘現場は、昨年度の調査区(「古民家だより」No.4をご参照)よりもやや北西に寄った所です。今回検出されたものをいくつか挙げてみましょう。

【大溝】400~500年前(戦国期)に埋没した幅9mの溝は昨年度の発掘でも検出され、これは北東方向に延びていると思われます。この大溝の南には元荒川がありますので、これとの関連がありそうです。

【火葬土坑】これも大溝と同じ時代のものと思われませんが、大溝が完全に埋没した後に設けられたものです。人の遺体を火葬した跡ですが、それにしは小さいように思えます。遺体を折り曲げて火葬したか、一度土葬されて骨になった遺体を改葬するために火葬したのかもしれませんが。

【井戸跡？】井戸枠は検出されていませんが、形状から井戸と思われます。図でわかるように、狭い地域に密集しているのが疑問です。



今回の発掘で出土した遺物を2つご紹介しましょう。



(実物大)

北宋末期(十二世紀頃初頭の中国)の通貨「大観通宝」・・・日本の中世前期(平安末期〜鎌倉時代)頃に大陸との交易で用いられた貨幣です。



焙烙(ほうろく)・・・一七世紀以降(江戸時代)のもの(半分)。調理用具の一つで、火の上で穀物、豆などを煎る道具。

すでに行われたこの周辺の発掘では、9世紀（平安時代初期）の竪穴住居址が見つかっています。この時期にこの地域に村があったことを示しています。前号でご紹介した野島地区・浄山寺の木造地藏菩薩立像が造られた時期でもあります。その後の中世、近世の遺構や遺物も検出されており、市域の歴史の未知の部分少しずつですが判明しつつあります。

古民家との対話

若い先生方の研修会

10年ぶりに改訂された学習指導要領による学校のカリキュラムが、小学校では来年度から（それ以外の学校では再来年度以降、順次）移行されます。この改訂では「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が図られます。新採用の先生方もこの視点を念頭に《観察力》をテーマとして、8月20日に旧東方村中村家住宅で研修会が行われました。古民家を観察、すなわち古民家と“対話”していただきました。主な内容は次の通りです。

- ◆3枚の絵の比較・・・同じテーマで異なる時代に描かれた絵を比較し、観察の意義をとらえる。
- ◆昔の明かり体験・・・灯明、ろうそく、行燈、石油ランプ、白熱電球の明かりを比べて観察。
- ◆主屋の見学・・・現代住宅との違いを中心に観察。茅葺に水が浸透しない様子も見ていただきました。
- ◆考古資料と整理室見学・・・市域の主な遺跡の様子や、出土した土器片に触れて観察。

わずか半日の滞在の中でも、若い先生方は自ら“深い学び”をされたことが感想文から伺えます。

★「観察力」というテーマで細かなところまでよく観る中で、様々な疑問を持ち、興味を持って資料（古民家、明かり、土器片）と向き合うことができました。対話的な学びとはこういうものなのだと実感することができました。

★今回の見学を通して教師として反省しなければいけないなと思ったことがあります。それは物に対する見方、教材や資料との対話が不十分であるということです。

★時代の変化に伴った文化や技術の進歩により失われたものについて考えてみるということが新鮮でした。子どもたちに与える視点を得るために大切な姿勢を学ぶことができました。

★江戸時代の白いお皿に染めたような紺の柄が描いてありました。日本には今もそのようなお皿があり、昔の人達の知恵を受け継いでいることも実感しました。また、昔の灯でも技術の発展という観点から将来的に便利になっていくにつれて失うものもあるということまで考えることができました。



★主屋はただ暮らすという役割だけでなく作業の場であったり、行政の場であったり、接待の場であったりと、内と外や上下関係をはっきりさせることが主となっているように感じた。

★その時代の背景や暮らしについても想像しながら見学することができました。特に土間は自分たちの生活と共通するところと違うところがわかりやすいため、子供たちからも疑問が出やすくなると思いました。そのような疑問から学習へと転換することで、主体的な学びにつながると考えました。

★土器にはすすの汚れがあるから料理に使われていたことが分かる、底の裏に渦巻模様があるからろくろで作られたことが分かるなどのお話をいただき、よく観察することの大切さと面白さを体験することができました。

